

会 議 録

会議名 (審議会等名)		コンプライアンス推進委員会				
事務局 (担当課)		コンプライアンス推進課 電話042-707-7040(直通)				
開催日時		令和元年6月25日(火) 午前9時30分～10時45分				
開催場所		相模原市役所 職員会館4階 会議室1				
出席者	委員	3人(別紙のとおり)				
	市	総務部コンプライアンス推進担当参事				
	事務局	3人(コンプライアンス推進課長、他2人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 平成30年度コンプライアンス推進に係る取組結果について 2 令和元年度コンプライアンス推進に係る取組について 3 内部統制制度の試行運用について 4 その他				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 平成30年度コンプライアンス推進に係る取組結果について

事務局より、資料1「平成30年度 コンプライアンス推進に係る取組状況」に基づき説明し意見交換を行った。

令和元年度の事務ミスについて、事務ミスをしてしまった職員の職位や経験年数はどれくらいの職員なのか。

USB紛失の事例に関しては、若い職員であるが、その課の在籍が長い職員である。選挙については、職位よりも経験年数が多い職員に仕事を任せる傾向がある。

未決裁の事例に関しては、20代後半の職員で一生懸命仕事をしているが、逆に仕事を抱え込んでしまったことから、今回の事案に至った。

研修とかかわってくると思うが、仕事の慣れや業務の負担感の中でコンプライアンス意識を失うことがあると思う。一つひとつの事例について、軽易な処理と思わせない職場作りをしていただきたい。

未決裁の事例に関しては、処理件数が年々増加していることが事後検証において明らかとなっており、職員の負担感が増していることから、効率的な事務処理体制の構築に取り組んでいるところである。

事務の効率化や正確性の担保について検討いただきたい。

個人情報の漏えいや不適切な決裁、公印の不適切な管理等は後述する内部統制制度の中で、リスクコントロールすることを考えている。

ミスをしてしまった職員へのケアもあわせてお願いしたい。

2 令和元年度コンプライアンス推進に係る取組について

事務局より、資料2-1～2-3に基づき、「令和元年度コンプライアンス推進に係る取組について」について説明し意見交換を行った。

ハラスメントに関して、重点取組に掲載していない局ではハラスメント防止について取り組んでいないのか。

何も取り組んでいないということではない。各種研修に参加したり、コンプライアンス推進課で貸し出しているDVDを用いて、各局で研修を実施する等取り組んでいる。

ハラスメントは人的被害となる。ハラスメントの問題は表に出てこないのも、

内々に処理をされてしまったり、個人がハラスメントと思わない中で、継続的に行われてしまったりする。ハラスメント文化が広がらないよう、各局でハラスメント対策を重点的に取り組むべきと考える。

3 内部統制制度の試行運用について

事務局より、資料3 - 1 ~ 3 - 9に基づき、「内部統制制度試行運用について」説明を行い、意見交換を行った。

内部統制活動管理シートの事務ミス記載欄に報道提供した場合は記載不要であるとあるが、なぜか。

報道提供した事務ミスの案件については、コンプライアンス推進課で調査することになっているため、詳細の記入を省くこととしている。

各所属で何名がシートを記入するのか。

所属において協議のうえ、原則、課単位で管理シートを作成する。

一人の職員が作って、それでおしまいとならないよう注意していただきたい。

シート作成後、どれくらい役立った等の感想を聞く欄を設けてはどうか。

試行運用なので、意見は聴きたいと考えている。シートとは別に意見を集約し、改善につなげたい。

各所属にシートを記入してもらうのは負担ではないか。

洗い出したリスク58項目を16項目に集約し、管理していくことを考えている。全く新しい取組を行うものではなく、既の実施している取組を基本にこれを体系化し、市全体で行っているということを示すものと考えている。多少の負担はあるが、ミスが起きるとしたらどこに問題があるかを考えてもらうことが重要であると考えている。

これだけの項目を管理するとなると、記入漏れ、記入誤りというのが発生する可能性がある。考えなしに書き始めると、とりあえず書いておこうということにもなりかねない。

反対にミスを書いたものを渡して確認してもらおうというのも手である。

シートを作るための作業になってしまうと無駄になってしまう。有効なものにするためには、リスクを認識し対策を考える活動が重要であると考えている。

主旨にはもちろん賛同する。ただ、考えさせる仕掛けが必要である。

既存のチェック方法があれば、そういうものを活用し、負担を減らしていただきたい。

過去の事務ミスの実例が記入してあると、注意喚起できるのではないか。

活動管理シートとは別に過去の事務ミス事例や監査指摘事項等を示す予定で

ある。

内部統制評価報告書はどのようなものか。

総務省の例示では一枚のみであるが、これだけでは監査委員の審査はできないことから、統制活動の内容も監査委員の審査に付すことを考えている。

議会には、報告書に加え、監査委員からの意見書をつけて提出することとなる。なお、事前に議会に対し、制度説明をする予定である。

4 その他

事務局より、コンプライアンス職員意識調査の実施頻度について、次のとおり提案し、委員の了承を得た。

< 提案内容 >

来年度調査を実施し、昨年度の実施から2年経過した時点での職員の意識変化の状況を踏まえて、次の実施時期について検討する。

議事録の署名については、委員長のほか署名委員を亀重委員とする。

次回開催日程については、11月上旬から中旬の間で開催とし、あらためて事務局から連絡することとした。

以 上

コンプライアンス推進委員会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	松井 望	首都大学東京 都市環境学部 都市政策科学科教授	委員長	出席
2	白澤 章子	弁護士	委員長代理	出席
3	亀重 恵美子	税理士		出席